



藤木しんや **ヒストリー**

農業・農家のために
がんばるばい!



誕生



昭和42年2月25日(0歳) **誕生**

熊本県上益城郡に酪農家の藤木家の長男として生まれる。

お腹の中にいた頃、「この子は牧場を支える強い子になる」と言われたこともあったそう。

幼少期



昭和43～48年(1～6歳)

小さな頃から牛と一緒

玄関を出れば目の前には牛舎。物心ついた頃から牛のお世話が大好きで、可愛いなあと思いつながらエサ作りなどを手伝っていた。この気持ちは今でも変わらない。

とことんしつけられ 今がある 父はとにかく厳しく、裏の蔵に閉じ込められたことも。近所の優しい野菜農家のおじさんに助けてもらっていた。



小学校時代



昭和48～54年(6～12歳)

変わらない志“夢は牛飼い”

タイムカプセルの手紙には「将来は牛飼いになり、牛舎をいっぱい建てる」と綴る。両親は朝5時から乳搾りで忙しく、3歳下の妹と5歳下の弟に朝ごはんを食べさせてから学校に通うなど、母を支えていた。小2の頃には30kgの飼料袋を持ち上げられ、エサの配分も1人でできるように。「手伝いをしろ」と言われたことは一度もない。

やんちゃな一面も 仲間たちとお宮で野球をしたり、川遊びをしたり…。大人が川に仕掛けたカゴから川ガニを横取りしてよく叱られた。



中学校時代



昭和54～57年(12～15歳)

心身ともに育ち盛り

町立嘉島中学校に入学。陸上部に入部し、中長距離選手として郡の大会では常に3位以内に入り、県大会にも出場。

中1の夏、家と牛舎が火事に。牛は酪農組合の人たちが逃がしてくれて無事だったが、火事を機に父が約1年間サラリーマンになり、仔牛20頭だけが残った。

中2の夏、家は再び牛飼いに。学校から帰ると、ワラ入れと牧草入れを手伝っていた。秋には1か月で身長が11cmも伸び、成長痛がはげしかった。

中2の冬、商業高校で牧場経営のために会計学を学ぼうかと考えていたが、三者面談の時「熊本農業高校にやります!」と父の一言で進路が決定。



おませな一面も

中学1年生にしてラブレターをもらい、年上の彼女ができた。



高校時代



昭和57～60年(15～18歳)

初めて育てた“自分の牛”

熊本農業高校の畜産科に入学。1年はニワトリと水田、2年は牛と豚、3年は酪農を専攻。部活は野球部に入る。

入学祝いに家畜商のおじさん(父の師匠)が牛を2頭貸してくれた。登校前の掃除と朝夕のエサやりが毎日の日課に。自分の牛を初めて出荷した時「牛は儲かるな」と思ったが、エサは父からもらっていたので当たり前…(笑)

高2になり、2頭の乳牛を仔牛から育てることに挑戦。高3の秋、1頭を牛の甲子園「共進会」に参加させると、地域のJAの予選を勝ち抜き、県で未經産部門の2位に輝いた。

トラクターの運転で大活躍

トラクターの運転は誰よりも上手く、学校の先生が入れない場所まで対応する凄腕!



就農



昭和60～61年(18～19歳)

仲間やJAに支えられて

卒業後、宮崎県えびの市で4か月半、兵庫県淡路島で5か月の研修を受けた。宮崎ではエサの成分計算、兵庫では経営の極意を学ぶ。兵庫の研修は血尿が出るほど厳しかった。

「牛舎は建てたから後はお前が払え」そう父と言われて就農。規模拡大なしには借金が返せないと気付き、JAから無利子の後継者育成資金1,300万円を借りて牛舎をもう1棟建てる。「JAなしには大きくなれなかった」感謝の想いは経営拡大とともに強まった。就農と同時にJAの青壮年部にも入部。父は町議やJAの理事の仕事でほぼ家におらず、先輩酪農家や仲間と相談しながら、ほぼ1人で200頭の牛を世話した。借金を返済しながら経費を抑え、いかに利益を増やすか自分なりに考え、とにかくがむしゃらに働いた。

結婚



昭和62~63年(20~21歳)

運命の出会い

4Hクラブの活動で熊本県農業視察団に参加し、ヨーロッパから戻ると体調を崩し高熱が続く。病院に搬送され、そこで看護してくれたのが、当時看護学生であった今の妻だった。

退院後、当時流行りのディスコなどで会うようになり交際。デート中もエサの時間には帰宅しなければならず、最初は家の中で待たせていたが、牛舎に入ってくるように。それを見た父の「この子は良いね」という言葉が後押しとなり、昭和63年(21歳)に結婚。2女2男の子宝にも恵まれ、牛舎や田畑を遊び場にして育てた。

地元や県の青年部



平成2~16年(23~37歳)

青年部の真髓を知る

平成2年(23歳)に熊本大島農協青壮年部の副部長に就任(現 JAかみましきに合併)。

平成5年(26歳)、ガット・ウルクアイルラウンド農業合意における「ミニマム・アクセス米の受け入れ」には農家の誰もが憤っており、JA熊本県青協は国会に突入する。突入したのは一部のメンバーだけだったが、国と戦う先輩の姿を目にした時、「政策について意見がある時は体を張ってでも立ち向かうべきなんだ!」と青年部の真髓を知った。

平成13年(34歳)から2年、JA熊本県青協の委員(兼 JA嘉島かみましき青壮年部支部長)を務め、平成15年(36歳)、仲間たちに推され県の委員長に。他県との交流の輪も広がる。

農林水産大臣賞受賞

自動で堆肥を混ぜることができる堆肥攪拌機や、通常1個しか運べない牧草ロールを、一度に2個はさんで運べる省力機械を開発し、平成7年度熊本県農業コンクールの創意開発部門で農林水産大臣賞を受賞した。

全国の青年部



平成16~18年(37~39歳)

“誇り高き”青年部であれ

県の委員長になってすぐ、JA全青協から次期の副会長のオファーが。「藤木さんを全国に推してきた」と九州ブロックの仲間から想いを告げられる。「家の仕事も心配…」という葛藤もあったが、家族を信じ、仲間の想いに応える形で、平成16年(37歳)、JA全青協の副会長に就任。翌年にはJA全青協会長に就任する。

平成16年にJA全青協が50周年を迎え「JA青年組織綱領」を改定。この時、前文に「誇り高き」という言葉を入れた。「私たちはただの青年部ではない。地域農業や未来の子どもたちのために、誇りを持って活動する組織だ」ということを示したかった。

挨拶は苦手で、当時の仲間には「全青協歴代会長の中で藤木の挨拶が一番下手だった」と未だに言われる…

平成19年(40歳)から7年間、JAかみましきの理事を務める(JAかみましき青壮年部の部長・参与も経験)

組合長時代



平成26~28年(47~49歳)

JAを変える

平成26年(47歳)、「JAを変える」、その志を青年部の仲間たちも推してくれ、当時史上最年少でJAかみましきの代表理事組合長に就任。

平成27年の秋。「農協改革でJAが叩かれている今、藤木さん腹をくくってくれ」熊本県農政連合会議で次期参院選への出馬を促され、出馬を決意。子どもの頃から一緒に仕事をしてきた長男も就農(平成27年、当時20歳)し、相談相手に父と妻もいるので、不安はあったが家の仕事を任せることができた。

組合長としての経営方針 “生産者に1円でも多くの収入を”

「生産者の利益を守る米価設定」「農産物の価格安定化を図る取引市場の見直し」「説明会や座談会での生産者との交流」を通して信頼されるJAづくりに努めた。

平成28年春「熊本地震」の経験 “人(組合員・地域住民・職員)を守る仕事”

自らも被災したが、家のことは夜中に済ませ、朝一でJAへ。被害状況確認の巡回をしながら、通常のJA業務(農産物の出荷など)も止めないよう対応にあたった。

国会議員へ



平成28年~(49歳~) 参議院自由民主党 副幹事長 自由民主党 農林副部長

農家の声を国政に

平成28年、第24回参議院選挙。JAグループの組織代表として参議院全国比例区で選挙戦を戦う。たくさんのご支援をいただき当選。

国政の場に送り出していただき4年。最近では政策決定に近い重要なポストを任せてもらえるようになり、令和元年には農林水産大臣政務官を拝命。

今まで唱えてきた「中小家族経営」や「中山間地農業」が支援される方向へ、風向きが変わるのを実感している。農家にとって不可抗力である災害への支援強化も訴えている。

唯一の専業農家出身議員として、農業・農家の未来のために、現場の声を聴き、国に届ける!